

講義名	特別講義(イノベーション・マネジメント)				授業形態	
担当教員	李 東浩	開講期・曜日・時限		前期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード

**主題と概要**

経営学科だけではなく、全大学院のすべての院生も知っておくべき体系知、イノベーション(革新)の基礎知識がなくても、1から優しく導入・解題・解析して進める。「資本主義の本質はイノベーションである!」、「イノベーションの本質は創造的破壊である!」、「発明、イノベーション、普及・模倣」を一体どのように理解すればいいのか? 受講生の高度な専門知識の蓄積と研究能力の養成に寄与する。

1. 100年以上前にシュンペーター(1911)に提起された「新結合」を特徴としたイノベーションの概念は日本においては「技術革新」(内閣府(1956)『経済白書』)と誤認されて久しい。つい最近、製品開発など生産やモノづくりといったハード面だけではなく、組織・経営・流通・販売など管理や消費・サービスなどソフト面の範疇までも拡大しつつある。つまり、製品イノベーションだけではなく、サービスや経営などのイノベーションもこの分野の射程に収められ、研究教育の膨大な知識が蓄積されている。

2. 他大学では、一橋大学(文科系):日本のイノベーション研究教育の最高峰の代表大学として、かなり組織的に取り組んでいる。学部や大学院だけではなく、イノベーション研究センター、IMPP(Innovation

**到達目標**

(1)知識・能力を身につける。  
本大学院特別講義は、大学院レベルで体系的・包括的にこの学問分野の知識を学べるようになる。経営学、組織論、戦略論の俯瞰的な視野を持ち、イノベーションをモノ(製品)とコト(経営・サービス)の両面から捉え、この分野の奥深さと幅広さを勉強できるようになる。  
古典的な文献と代表的な文献のみならず、最新の文献をも取り入れ、イノベーション分野に関する知っておくべき知識や理論パラダイムを習得し、履修生の高度な研究能力の形成に寄与できるようになる。

(2)読書力・文章力を向上する。  
履修者はイノベーションの特論課題を毎回事前に課題を熟読したうえ、概要のまとめ・レビュー・問題点と解決案といった3つの内容が入ったレポートに基づき、ローテーションで15分以内で発表する。  
教員側は60分間の詳細な解説と評価を加えた後、最後の15分間に、全員の考え、判断、質疑・討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで授業を進行させる。

**提出課題**

1. 期末試験や期末レポートはない。
2. 毎回、輪番報告者は2頁(または以上)を全員へ共有し、授業前日(月曜日)17時までに、レポートを提出すること。また当日、15分以内に発表すること。
3. レポートの内容・分量を以下のように作成してください。  
概要のまとめ(半分紙幅、約1頁)、  
レビュー・コメント(1/4紙幅、約0.5頁)、  
課題・解決案やプラス(1/4紙幅、約0.5頁)、にする。
4. 全員、毎回、事前に履修者同士のレポートや資料を読んでおくこと。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法**

毎回、導入、発表、解説、討論と振り返りを行う。

**評価の基準**

平日の読書ノート(レポート)が100%ウェイトで成績・単位を判定する。具体的に、

1. 期末試験や期末レポートはない。
2. 毎回出席し、輪番発表や討論参加は必須である。
3. 毎回、事前に課題を熟読し、自分のレポートを提出・他人のレポートをも一読したうえ授業に参加する。
4. 報告者は報告を、参加者はコメント・質問を、また全員は積極的に授業へ討論・貢献をすること。
5. 輪読ではなく通読の形で全員参加する必要がある

**履修にあたっての注意・助言他**

1. 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安:輪番報告者は毎回6時間、参加者は毎回4時間。
2. 古典を運用する。学んだ古典文献を現実社会に積極的に運用・分析してみる。
3. 能動的な集団学習。相互の啓発、知的な刺激が大事である。
4. 教員と履修者は毎回、配布必読資料のほかに、適宜、関連文献や情報・課題も教室までに持ち込み、全員発言討論型・参加参加型の授業を行っていく。

**教科書**

.使用しない。.				

**参考図書**

.マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門.	一橋大学イノベーション研究センター (編集)	日本経済新聞出版; 第2版 (2017/10/26) 504ページ	3960	4532134749
.イノベーション・マネジメント 成功を持続させる組織の構築(ウォートン経営戦略シリーズ).	トニー・ダビラ(著), マーク・J・エプスタイン(著), ロバート・シェルトン(著), スカイライトコン	英治出版(2007/2/9) 400ページ	2640	4901234986
.イノベーション・マネジメント: プロセス・組織の構造化から考える.	野城 智也(著)	東京大学出版会(2016/5/31) 420ページ	5280	4130421433

**その他**

1. プリントは毎回、来週の資料として事前に配布する。
2. 参考文献は、以下の授業計画に書いているように、15回分ある。

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

<input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> エ: グループワーク	<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

備考 全員、事前に資料と心構えを準備したうえ、授業に臨んでください。

授業計画

- 1 イントロダクション：授業の進め方、科目の位置づけ、概要（内閣府（1956）『経済白書』抜粋等導入資料）
- 2 イノベーションの起源と概念（シュンペーター（1911）『経済発展の理論』邦訳版1977、岩波文庫）等。
- 3 製品イノベーションとプロセス・イノベーション：生産性のジレンマ=A-Uモデル（アッターバック・アバナシー（1975, 1978, 1998）『イノベーション・ダイナミクス』）
- 4 イノベーションの発生と普及（小川（2000）『イノベーションの発生理論』）
- 5 イノベーションの時代特徴（ブラハラード・クリシュナン（2009）『イノベーションの新時代』）
- 6 イノベーションのジレンマ：持続的 vs 破壊的イノベーションの論理（クリステンセン（1997, 2003, 2014））
- 7 アーキテクチャ・イノベーション（Henderson & Clark（1990）, Ulrich（1995）, Baldwin & Clark（2000））
- 8 オープン・イノベーション（チェスブロウ（2004）『オープン・イノベーション』）
- 9 サービス・イノベーション（近藤（2012）『サービス・イノベーションの理論と方法』、チェスブロウ（2012）『オープン・サービス・イノベーション』）
- 10 ユーザー・イノベーション：加護野・延岡・栗木・吉原（2014）『顧客との価値共創 - 一橋ビジネスレビュー2014春季号』、延岡（2011）『価値づくり経営の論理』）
- 11 デザイン・イノベーション（ベルガンティ（2012）『デザイン・ドリブン・イノベーション』）
- 12 リバース・イノベーション（ゴビンドラジヤン・トリンブル（2012）『リバース・イノベーション』）等。
- 13 ビジネス・モデルのイノベーション（キリー・ビッケル（2014）『ビジネス・モデル・イノベーション』）
- 14 ナショナル・イノベーション・システム（NIS）（野中・永田（1995）『日本型イノベーション・システム』）
- 15 キャッチ・アップ・イノベーション：模倣から創造へ（Kim（1997）Imitation to Innovation: the Dynamics of Korea's technological learning、李東浩（2018）『模倣と創造のダイナミズム』）

注：一部変更する可能性がある。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 批判的な思考能力を身に付け、論理的に推論・演繹・帰納するアカデミック素質を養成できる。
2. 企業や組織のイノベーションの仕組みを自ら主体的な立場から理解し、身につけた知識・能力等を生かす。
3. 組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかけ、論理的かつ実証的に組織のイノベーションの企画と実施行動に参画能力を持つことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

全員参加型授業である。

実務経験の有無及び活用

なし。